

日本離婚・再婚家族と

子ども研究学会

第3回大会プログラム・大会論文集

The 3rd Annual Conference of

the Japanese Association for Research on Children of Divorced Families and Stepfamilies

2020. 10. 3 - 4

オンライン開催

日本離婚・再婚家族と子ども研究学会

第3回大会開催にあたってのごあいさつ

新型コロナウイルス感染拡大は、私たちの社会生活全般に大きな影響を与え続けています。コロナ禍からの回復の見通しは今なお不透明なままです。本学会の中心課題である離婚・再婚後の家族生活への影響も深刻です。私たちの学会活動を止めるわけにはいきません。コロナ禍経験後の世界について眼を向ける必要もあります。

そこで、2020年10月3日(土曜)・4日(日曜)の第3回大会は、すべてウェブ会議ツール(Zoom)によるオンライン開催に初めて挑戦します。今大会のテーマは「離婚・再婚後の子どもと親—父母の関係と親子の新たなきずなをめぐって」としました。基調講演には、加茂登志子先生(一般社団法人 日本 PCIT 研修センター/センター長/精神科医)をお迎えし、「子どもの養育と家族—PCIT での体験を通して」についてお話しいただく予定です(基調講演だけは非会員を含めて一般公開)。

また、大会企画シンポジウム「事例をとおして垣間見えた親子のきずなと父母の関係」を開催します。シンポジストとして、牛見和博(弁護士法人 牛見総合法律事務所/弁護士)・牛見明日香(公認心理師・臨床心理士)、しばはし聡子(一般社団法人 りむすび/代表)、吉田浩(札幌家庭裁判所室蘭支部/家庭裁判所調査官)の各氏が登壇します。

プログラム、開催方法、参加・発表申し込み方法の詳細については、[大会ホームページ](#)の左側のメニューをクリックして、各ページで最新情報をチェックしてください。その中に「[オンライン参加マニュアル](#)」を用意しましたので、事前に必ずお読みいただけますようお願いいたします。

オフライン開催の過去の大会以上に多数の会員のご参加をお待ちしております。

2020年9月15日

日本離婚・再婚家族と子ども研究学会

第3回大会委員長 野沢 慎司

目次

大会スケジュール	4
大会参加者へのご案内.....	5
1. 会場（使用ツール）	5
2. 交流会.....	5
3. 総会.....	5
4. 非会員の参加について（基調講演のみ）	5
5. オンライン開催にあたって厳守していただきたいこと.....	5
6. 書籍販売について.....	5
7. お問い合わせ	5
研究発表，ラウンドテーブル企画者の方へのご案内.....	7
基調講演	8
大会シンポジウム.....	9
研究発表①	11
研究発表②	12
ラウンドテーブル.....	13
日本離婚・再婚家族と子ども研究学会 第3回大会論文集.....	14

大会スケジュール

大会スケジュール1日目 10月3日(土)

	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
Zoom ビデオ ウェビナー						13:30 - 15:10 基調講演 「子どもの養育と家族 —PCITでの体験を通して—」			
Zoom ミーティング ①	10:00 - 10:15 研究発表① 打ち合わせ	10:25 - 12:20 研究発表① ①-1 離婚後の子どもが同居 祖父母に抱く存在やイ メージ・感情に関する 探索的研究 ①-2 物語における「ス テップファ ザー」の描 かれ方の 分析 ①-3 ステップファ ミリーへの ソーシャル ワーク実践理 論による支援 方法の構築に むけた研究					15:40 - 18:00 大会企画シンポジウム 「事例をとおして垣間見えた親子のきずなと父母の関係」		
Zoom ミーティング ②									

大会スケジュール2日目 10月4日(日)

	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
Zoom ビデオ ウェビナー									
Zoom ミーティング ①	10:00 - 10:15 研究発表② 打ち合わせ	10:25 - 12:20 研究発表② ②-1 母親の面 会交流の 受けとめと ゲートキー ピングの関 連 ②-2 親用片親疎 外尺度 (PASPJ) の作成と信 頼性・妥当 性の検討 ②-3 親の離婚を 経験した大 学生に対す るFAITプ ログラムの 試行実践			13:20 - 14:30 年次総会	14:40 - 15:40 会員企画ラウンド テーブルA 高葛藤夫婦事例の非 監護親と子どもの面 会交流 —法律職は対人援助 職に何を望むか?— (前半)	15:50 - 16:50 会員企画ラウンド テーブルA 高葛藤夫婦事例の非 監護親と子どもの面 会交流 —法律職は対人援助 職に何を望むか?— (後半)		17:10 - 18:00 オンライン交流会 ※ミーティ ングルー ムのURL等 詳細は参加 者に別途ご 連絡します
Zoom ミーティング ②					聴講者のみなさま 会員企画ラウンドテーブルは、2枠連続 (120分)の企画2つ(AとB)のみが同時進 行になります。どちら前半の議論を前提 にして後半が進行しますので、休憩時間に 移動せずに同一企画を連続聴講されるこ とをお奨めします。	14:40 - 15:40 会員企画ラウンド テーブルB ステップファミリーへ の移行期の課題 —離婚後家族のスト レンジスを育むための理 解と支援— (前半)	15:50 - 16:50 会員企画ラウンド テーブルB ステップファミリーへ の移行期の課題 —離婚後家族のスト レンジスを育むための理 解と支援— (後半)		

大会参加者へのご案内

1. 会場（使用ツール）

基調講演 | Zoom ビデオウェビナー

シンポジウム・研究発表・ラウンドテーブル | Zoom ミーティング

(アクセスに必要な情報は、大会 7 日前に配信予定の大会参加者宛のメールにてご案内します。)

2. 交流会

日時 | 大会 2 日目(10 月 4 日・日)17:10-18:00

使用ツール | Zoom ミーティング

<ご注意>

1. 事前のお申し込みが必要です。詳細は参加お申し込みの方に別途お知らせいたします。
2. 追加料金はかかりません。

3. 総会

日時 | 大会 2 日目(10 月 4 日・日)13:20-14:30

使用ツール | Zoom ミーティング

学会に対する会員の皆さまの期待やご意見をお聞かせください。

4. 非会員の参加について（基調講演のみ）

基調講演のみ、非会員の参加を受け付けています。

5. オンライン開催にあたって厳守していただきたいこと

参加申し込み時に、すべての企画についての守秘義務および、録音・録画・写真撮影を行わないことに同意していただいておりますので、その旨ご了承ください。

6. 書籍販売について

オンライン開催では書籍販売を行うことができませんが、[大会トップページ](#)の左側および、この大会プログラムの巻末に出版社様のバナーや広告を掲載させていただいております。バナーや広告をクリックしていただきますと、各出版社様のウェブサイトを開覧できるようになっています。ぜひ御覧ください。

7. お問い合わせ

・大会当日 | お問い合わせをお受けするほか、事務局から当日の進行状況なども随時アナウンスする予定です。

LINE オープンチャット「第 3 回大会」

(アクセスに必要な情報は、大会 7 日前に配信予定の大会参加者宛のメールにてご案内します。)

※こちらのオープンチャットは、大会当日、大会事務局メールアドレスに問い合わせが集中することを避けるためにご用意しています。LINE アカウントをお持ちの方は、できるだけLINE オープンチャットのご活用をお願いいたします。なお、緊急時など重要な情報はメールでも配信いたします。

※LINE のアカウントをお持ちでない方からの大会当日の問い合わせは、

第3回大会事務局 2020office@jarcds.org にてお受けいたします。

※LINE オープンチャットでは、参加者のLINE ID は公開されませんので、安心してご利用いただけます。

※大会7日前から参加可能ですので、お早めにご登録ください。

・大会当日以外 | 会場や大会全般に関するお問い合わせ

第3回大会事務局へ 2020office@jarcds.org

・大会当日以外 | 入会等に関するお問い合わせ

学会事務局へ info@jarcds.org

研究発表，ラウンドテーブル企画者の方へのご案内

1. 【必須】マニュアルについて

研究発表(口頭)を行う会員やラウンドテーブル企画者は，事前に大会ホームページに掲載されているマニュアルの該当部分をご一読ください。発表の準備や当日の進行は，マニュアルに従って進めてください。マニュアルは，随時(開催当日中にも)改訂される可能性があります。ときどき，[こちらのページ](#)で最新バージョンをチェックしてください。

2. 【必須】発表時に画面共有するスライドや資料の提出について

研究発表(口頭)を行う会員やラウンドテーブル企画者は，発表時に画面共有するスライドや資料等を，10月2日(金)正午までにPDF形式で大会事務局(2020office@jarcds.org)宛のメール添付ファイルで提出してください。発表中にインターネット通信トラブル等で発表者が発表できなくなった場合に，大会事務局が代理でその資料を提示することがあります。トラブル等がなかった場合には資料は提示せず，他の目的で使用することもありません。

3. (任意) 配布資料について

研究発表(口頭)を行う会員やラウンドテーブル企画者で事前に配布したい資料等がある場合は，9月26日(土)までにPDF形式で大会事務局(2020office@jarcds.org)に提出(添付ファイル送信)してください。大会に参加申し込みをした人のみが資料をダウンロードできるように大会ホームページに掲載します。

4. 【必須】事前打ち合わせについて

研究発表(口頭)を行う会員は，発表当日(10:00-10:15を予定)に研究発表者・司会者・大会事務局で打ち合わせを行います。

ラウンドテーブル企画者は，登壇者と共にラウンドテーブル開始時刻の5分前までにラウンドテーブルで使用するZoomミーティングに接続し，簡単な段取りの確認(2セッション連続の場合の時間配分など)を行うようにしてください。

基調講演

10月3日 13:30-15:10 Zoomビデオウェビナー

子どもの養育と家族 —PCITでの体験を通して—



講演者 | 加茂 登志子 先生

(一般社団法人 日本PCIT研修センター/センター長/精神科医)

司 会 | 福丸 由佳 (白梅学園大学)

親子関係の改善に有効性が示されているPCIT (Parent Child Interaction Therapy: 親子相互交流療法)について、その理論やスキルを紹介しながら、トラウマの問題やコロナ禍の子育て、離婚を経験する子どもと親の関係など、子どもの養育と家族の問題についてお話しいただく予定です。

*日本PCIT研修センターのページは[こちら](#)です。

大会シンポジウム

10月3日 15:40-18:00 Zoom ミーティング①

事例をとおして垣間見えた親子のきずなと父母の関係

シンポジスト | 牛見 和博 (弁護士法人 牛見総合法律事務所 / 弁護士)

牛見 明日香 (公認心理師・臨床心理士)

シンポジスト | しばはし 聡子 (一般社団法人 りむすび / 代表)

シンポジスト | 吉田 浩 (札幌家庭裁判所室蘭支部 / 家庭裁判所調査官)

司 会 | 町田 隆司 (東京家庭裁判所)

【企画趣旨】

家族支援の活動や実務に関わる本学会員は、それぞれの臨床場面で、いろいろな当事者の方に出会われると思います。激しい苛立ちや怒りをぶつけられたりする一方、親子の感動的な瞬間に立会ったり、雪解けにほっこりした気持ちを受けたりすることもあるでしょう。

今回は、山口県で法律事務所を開設しておられる牛見和博弁護士・牛見明日香公認心理師 / 臨床心理士ご夫妻、札幌家庭裁判所室蘭支部の吉田浩家庭裁判所調査官、一般社団法人「りむすび」のしばはし聡子代表の各先生をシンポジストにお迎えしました。それぞれご自身の経験をもとに、研究者や司法関係者そして実務家が共有しておきたい「親子のきずなと父母の関係」について、話題提供していただこうと思っております。

離婚後の親子・父母の関係を見据えた法律事務所の取組み

牛見 和博 (弁護士法人 牛見総合法律事務所 / 弁護士)

牛見 明日香 (公認心理師・臨床心理士)

当事務所は、離婚と子の問題に悩む父母の相談を受け、一方当事者の代理人として活動するだけでなく、中立的な立場での面会交流支援も行っている。コロナ禍においては、コロナの不安と混乱とともに、離婚後に一旦は収まったかに見えた父母の葛藤が表面化したり、支援者自体も活動を停止するなどして、特に面会交流に影響を与える(親子が会えない)という事態が発生した。他方で、当事務所が関わった親子の中には、これまでどおりに会えた親子もあるし、逆に面会交流の頻度が増えたという親子もある。これは、離婚前からの親子のきずなと父母の関係によるところが大きいですが、同時に、当事務所の特徴である法律と心理の専門家の協働がうまく機能したのではないかと考えている。当事務所が経験した事例を通して、親子のきずなと父母の関係について改めて考えるとともに、離婚と子の問題を扱う法律事務所において法律と心理の専門家が協働する意味を考えてみたい。

共同養育実践に向けた親同士の関係再構築への支援の必要性

しばはし 聡子（一般社団法人 りむすび／代表）

高葛藤な夫婦が共同養育を実践するためには、初期の段階で争わずにお互いの葛藤を下げ対等な話し合いをすることで、いかに親同士の関係を再構築していけるかがポイントとなる。

当会では、同居親別居親各々に向けたカウンセリングを通して、両者の心の架け橋的な伴走を重んじた支援を行っている。具体的な支援の介入方法を紹介するとともに、同居親と別居親が対立構造になる原因や、高葛藤から共同養育実践できるようになった事例を共有し、快方に向かうケースと争いが激化するケースの分岐点についても触れたい。

また、コロナ禍において感染拡大防止をふまえた支援の必要性が高まるなか、当会が提供しているオンラインを活用した面会交流支援、協議離婚サポート、同居親別居親が集う自助会等を取り上げ、利用者の声を紹介しながら今後のオンライン支援の可能性について触れたい。

面会交流の紛争における高葛藤化のパターンとその対処

吉田 浩（札幌家庭裁判所室蘭支部／家庭裁判所調査官）

私は決して裁判所の組織を代表しているわけではありませんので、裁判所としてどのような取り組みをしているのかをお話することはできませんし、個別の事例を紹介することもできません。しかし、面会交流がなぜ紛糾し、高葛藤になりやすく、援助者や仲介者の解決への試みはしばしば失敗するのか、そして、葛藤を低減するためにどのような作業仮説が考えられるのかについて、皆様のお役に立つかもしれないお話はできるかと思えます。

援用される知見は主に、ブリーフセラピー（家族療法）、認知行動療法、マインドフルネス、精神分析、社会心理学、トラウマ関連ですが、何よりも優れた諸先輩方からの学びと私自身の経験に基づいています。

研究発表①

10月3日 10:25-12:20

Zoom ミーティング①会場

座長:菊地 真理(大阪産業大学)

10:30-11:00

- ①-1 離婚後の子どもが同居祖父母に抱く存在やイメージ・感情に関する探索的研究
—PAC分析を用いて—

野口 康彦(茨城大学)

親の離婚を経て、同居親の祖父母と暮らした経験のある大学生を対象とし、離婚後の子どもが同居祖父母に抱く存在やイメージ・感情に焦点をあて、PAC(Personal Attitude Construct)分析を用いて、探索的に検討を行った。離婚後の子どもの家庭生活と祖父母の担う役割について、若干の言及を行いたい。また、親の離婚を経験していない大学生で、祖父母との同居経験のある者に対して行った、ウェブフォームによるアンケート結果についても紹介したい。

11:00-11:30

- ①-2 物語における「ステップファザー」の描かれ方の分析

渡部 晃大(京都大学大学院教育学研究科)

児童向け文学作品を対象として、「ステップファザー」という存在がどのように表象されているかを分析した。分析の結果、再婚をきっかけとしてアウトサイダーとなる存在が子どもからステップファザーへと入れ替わっている描写、家内領域では不安定な「父親」としての地位が、公共領域では「名字の変更」によって容易に得られる描写があると読み取った。

11:30-12:00

- ①-3 ステップファミリーへのソーシャルワーク実践理論による支援方法の構築にむけた研究
—エコシステム構想とライフストーリーワークによる具体的展開—

小榮住 まゆ子(椋山女学園大学)

ステップファミリーへのソーシャルワーク実践理論にもとづく支援方法の構築をめざし、本研究は、ステップファミリーの特性、ニーズ、支援の現状を整理・概観しながら、求められるソーシャルワーク実践の課題を考察した。またその具体的展開方法としてエコシステム構想とライフストーリーワークの支援特性、支援ツール、具体的展開方法の整理を通じて、両方法による科学性と実存性の統合化による支援方法の意義と必要性を述べた。

12:00-12:20

交流・質問 | 司会によるセッション終了の挨拶後、Zoom ミーティング①を時間まで開放しますので、発表者・司会者での交流や、聴講者でご希望の方は追加の質問などの時間としてご利用ください。

研究発表②

10月4日 10:25-12:20

Zoom ミーティング①会場

座長:青木 聡(大正大学)

10:30-11:00

②-1 母親の面会交流の受けとめとゲートキーピングの関連

—母親のソーシャルサポートと母親による子どもの意思・様子確認の調整効果の検討—

○直原 康光, #安藤 智子

(筑波大学大学院人間総合科学研究科, 筑波大学人間系)

離婚後に子どもと同居する母親のゲートキーピングの規定要因を明らかにするため、母親の面会交流の受けとめとの関連を検討した。その際、母親のソーシャルサポートと母親による子どもの意思・様子確認を調整変数として用いて階層的重回帰分析を行った結果、交互作用が認められ、母親のソーシャルサポートと母親による子どもの意思・様子確認が、ゲートキーピングを適切に行うための鍵となっていることが示唆された。

11:00-11:30

②-2 親用片親疎外尺度(PASPJ)の作成と信頼性・妥当性の検討

○柏木 舞, 高坂 康雅

(医療法人ラック, 和光大学)

本研究の目的は、RPAS を参考に、日本語版の親用片親疎外尺度(PASPJ)を作成し、信頼性妥当性を検討することであった。離婚を経験し15歳以下の子をもつ者を対象に調査を実施したところ、5因子が抽出された。 α 係数はいずれも.70を超えていた。親子関係尺度や人生に対する満足尺度との関連では、4つの因子は予想された関連がみられたが、「独立した思想家」は予想に反する関連がみられた。そこで、4因子をもってPASPJとすることが妥当であると考えられた。

11:30-12:00

②-3 親の離婚を経験した大学生に対するFAITプログラムの試行実践

—プログラム参加後インタビューの質的分析—

○山田 哲子, 福丸 由佳, 大瀧 玲子, 曾山 いづみ, #杉本 美穂, 大西 真美

(立教大学, 白梅学園大学, 日本女子大学, 奈良女子大学,

栃木県南児童相談所, 司馬クリニック)

離婚を経験する親子を対象にした心理教育プログラムであるFAITを、未成年の頃に親の離婚を経験した大学生を対象に試行実践を行い、プログラム参加後に個別の半構造化インタビューを行って質的に分析を行った。その結果、親の離婚から10数年以上が経過した大学生であっても当事者グループのプログラムに参加することで、離婚に関する認知の修正や自身の感情の整理など、プログラム参加前後で自身の変化を語っていた。

12:00-12:20

交流・質問 | 司会によるセッション終了の挨拶後、Zoom ミーティング①を時間まで開放しますので、発表者・司会者での交流や、聴講者でご希望の方は追加の質問などの時間としてご利用ください。

注. ○は発表責任者, #は非会員である。

ラウンドテーブル

10月4日 14:40-15:40(前半), 15:50-16:50(後半)

◇会員企画ラウンドテーブルは、2枠連続(120分)の企画2つ(AとB)のみが同時進行になります。どちらも前半の議論を前提にして後半が進行しますので、休憩時間に移動せずに同一企画を連続聴講されることをお奨めします。

A | Zoom ミーティング①会場

高葛藤夫婦事例の非監護親と子どもの面会交流

—法律職は対人援助職に何を望むか?—

企画者 | 村尾 泰弘(立正大学), 町田 隆司(東京家庭裁判所)

司会 | 村尾 泰弘

話題提供者 | 今里 恵子(弁護士/東京弁護士会)

指定討論者 | 上原 裕之(静岡大学(未来社会デザイン機構)客員教授/弁護士), 町田 隆司

法律職と対人援助職(心理職実務家)に役割分担的な棲み分けがあるのは当然だが、協働の必要性・重要性も認識すべきという問題を提起したい。その典型に高葛藤夫婦の離婚紛争や面会交流がある。法律職が苦勞して合意や審判・判決に結びつけても、対人援助職が適確にそれを理解して活動しなければ、その苦勞は画餅に帰しかねない。最悪の場合、紛争の再燃を来たすことさえある。法律職と対人援助職の望ましい協働のあり方を議論したい。

B | Zoom ミーティング②会場

ステップファミリーへの移行期の課題

—離婚後家族のストレングスを育むための理解と支援—

企画者 | 緒倉 珠巳, 青葉 由紀子(ステップファミリー・アソシエーション・オブ・ジャパン)

コメンテーター | 福丸 由佳(白梅学園大学)

離婚後の家族関係は、時間の経過とともに様々な変化を伴う。離婚した両親の一方、あるいは双方が次のパートナーとの暮らしを歩み出す時に、親も子も、ある種の喪失や新たな課題と遭遇することになる。今回はこうした「ステップファミリー」へと移行する家族に注目し、そのフェーズごとにどのような状況があるかアセスメントの練習をする。また、家族のメンバー各々の心情の違いについて理解を深めたいと、どのような支援や工夫が考えられるのかを検討したい。

日本離婚・再婚家族と子ども研究学会

第3回大会論文集

(※大会論文集は大会参加者のみに公開いたします。)

子どもの道徳的・法的地位と正義論

大江 洋著

●新・子どもの権利論序説

●A5判/232頁/4500円

子どもをめぐる悲劇が後を絶たない、「子どもの権利」とは何か。「氏か育ちか」をはじめ子どもの事実的特性に関する子ども学、関係の権利としての子ども学、国家による市民性教育、子育てコスト共有等、応用場面に目配りし、子どもの権利論の射程を広げる。

序章 子ども問題の法哲学/第1章 議論の前提としての子ども論/第2章 親子関係とは—親権概念を問い直す/第3章 親の正義論—子育てコストの共有問題/第4章 誰のため、何のための陶冶・教育?—市民性教育問題から考える
終章 子どもに関する正義論・権利論

家族をめぐる法・心理・福祉

村尾泰弘 編著

●法と臨床が交錯する現場の実践ガイド

●2900円

少年非行、DV、児童虐待、ストーカー、高齢者介護、離婚、面会交流など、広範な問題を取り上げ、法・心理・福祉の3領域から解説。第1部は各領域の基本的知識を解説し、第2部は問題ごとに、事例をあげて考察。第3部は新たな潮流と課題を提示する。

面会交流支援の方法と課題

二宮周平 編

●3200円

●別居・離婚後の親子へのサポートを目指して
家裁実務の最新動向を踏まえつつ面会交流の意義を論じ、厚労省FPIIC事業や民間支援団体の活動経験を交流したフォーラムを紹介。さらに当事者目線に立ち、支援する側がいかなる視点で活動に取り組みべきかを提起する。

離別後の親子関係を問い直す

小川富之・高橋睦子・立石直子 編

●3200円

●子どもの福祉と家事実務の架け橋をめざして
離別後の親子関係は、「子の利益」となっているか。子の発達の課題やリスクを心理学・脳科学・乳幼児精神保健等の知見をもとに精査し、親子の交流を推進する昨今の家事紛争に法学と実務の立場から検証・提言。

ハーグ条約の理論と実務

大谷美紀子・西谷祐子 編著

12月刊行予定

●国境を越えた子の奪い合い紛争の解決のために

国内実施法の制度や判例の紹介にとどまらず離婚や子の監護権・面会交流に関する涉外事件の実務で必須となる考え方を解説。日本との間でハーグ条約関連事案が扱われることが多い5カ国の実施状況を紹介。研究者、弁護士、法務省・外務省担当者の共同研究の成果。

●東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所編

※近刊

●子どもの学びと成長を追う

—2万組の親子パネル調査から
累計2万組の子どもの保護者に対する継続的な大規模パネル調査により、「子どもの生活と学び」の実態を明らかにし、その課題に迫る。
A5判上製328頁本体3000円 ISBN978-4-326-25145-2

●石田浩・有田伸・藤原翔 編著

●人生の歩みを追跡する

—東大社研パネル調査でみる現代日本社会
若年者・壮年者を10年以上追跡した「働き方とライフスタイルの変化に関する全国調査」から格差・不平等の問題を明らかにする。
A5判上製288頁本体3200円 ISBN978-4-326-60326-8

●荒牧章平

●教育格差のかくれた背景

—親のパイソナルネットワークと学歴志向
教育格差を生む背景に親の学歴志向の差異があり、それが親族や友人に影響されていることを質問紙調査に基づいて実証的に析出する。
A5判上製260頁本体3800円 ISBN978-4-326-60319-0

●清水美紀

●子育てをめぐる公私再編のポリテイクス

—幼稚園における預かり保育に着目して
「子育て」は、誰がどのように担うべきなのか。論点がマクロ/ミクロレベルで再編される中、子育てをめぐるポリテイクスを分析する。
A5判上製288頁本体3800円 ISBN978-4-326-60320-6

●那須耕介・橋本努 編著

●ナッジ!?

—自由でおせっかいなリバタリアン・パターナリズム
それは「支援」なのか「操作」なのか。強制にも説得にも頼らない社会改革の新技術とその思想を、気鋭の論者が問いただす!
四六判上製264頁本体2500円 ISBN978-4-326-55084-5

●相馬直子・松木洋人 編著

●子育て支援を労働として考える

—「子育て支援労働」を実証分析するはじめての学術書。市民性・当事者性が強調される労働実態と社会的評価の重要性を示す。
A5判上製232頁本体2500円 ISBN978-4-326-60327-5

●土屋敦・野々村淑子 編著

●孤児と救済のエポック

—十六〜二十世紀にみる子ども・家族規範の多層性
家族史の視座から孤児院や児童保護史においてエポックメイキングな時代に焦点をあて、近代家族・子ども規範の多層性を読み解く。
A5判上製376頁本体4200円 ISBN978-4-326-60316-9

●林明子

●生活保護世帯の子どものライフストーリー

—貧困の世代的再生産
貧困はいかに世代をこえて再生産されるのか。生活保護世帯の子どものライフストーリーからある進路へと至る過程を分析する。
A5判上製244頁本体3500円 ISBN978-4-326-60289-6

●石田浩 監修・編/佐藤博樹 編

●出会いと結婚「シリーズ 格差の連鎖と若者2」

—若者の結婚に関する希望は依然として強いものの、その希望の実現が難しい現実がある。未婚化の背景要因でもあるこの現実を読み解く。
A5判上製256頁本体2800円 ISBN978-4-326-64883-2

【好評図書のご案内】

民法770条1項5号の解釈・判断に迫る！



判例に学ぶ
婚姻を継続し難い重大な事由

弁護士 本橋美智子 著 2020年7月刊 A5判 232頁 本体2,500円+税

離婚事案に精通した弁護士・臨床心理士・社会福祉士・家裁調査官・研究者の知識・ノウハウを集結！

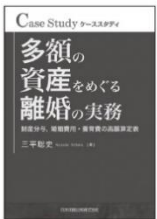


実践 離婚事案解決マニュアル

当事者ケアと子どもの権利・利益実現に向けた、
弁護士のサポートのあり方

立命館大学法学部教授 二宮周平 編集代表 2020年6月刊 A5判 456頁 本体4,400円+税

54の具体的なケースや裁判例、オリジナル「高額算定表」で解説！



ケーススタディ
多額の資産をめぐる離婚の実務

財産分与、婚姻費用・養育費の高額算定表

弁護士 三平聡史 著 2020年5月刊 A5判 260頁 本体2,900円+税

「親の権利とは」行為規範としての立法の役割に迫る

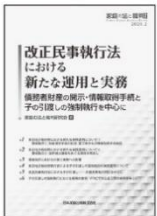


日米親権法の比較研究

関西学院大学法学部教授 山口亮子 著

2020年3月刊 A5判上製 368頁 本体5,600円+税

実務の変更点や新しい書式をコンパクトかつ速報的に解説！



改正民事執行法における
新たな運用と実務

家庭の法と裁判 号外

債務者財産の開示・情報取得手続と子の引渡しの強制執行を中心に

家庭の法と裁判研究会 編 2020年2月刊 B5判 160頁 本体1,800円+税

家事事件・少年事件の最新動向を追う唯一の判例雑誌

家庭の法と裁判 28
FAMILY COURT JOURNAL

座談会 養育費と履行の確保

2020年10月号 本体1,800円+税



日本加除出版

〒171-8516 東京都豊島区南長崎3丁目16番6号 www.kajo.co.jp

TEL(03)3953-5642 FAX(03)3953-2061 (営業部)

ツイッターID: @nihonkajo

離婚と面会交流

子どもに寄りそう制度と支援

小田切紀子, 町田隆司 編著

子どもにとって望ましい面会交流のために必要な支援、制度、そして社会が共有すべき考え方はどのようなものであろうか。本書では、臨床心理学・法学・社会学など多様な分野から、そして家裁調査官・弁護士・国際司法・ADR・支援団体など多様な立場から、子どもに寄りそう制度と支援に向けた現状と提言を集めた。

A5判 244頁 本体3,200円+税



ステップファミリーのきほんをまなぶ

離婚・再婚と子どもたち

SAJ(ステップファミリー・アソシエーション・オブ・ジャパン), 野沢慎司 著
緒倉珠巳, 野沢慎司, 菊地真理 編

ステップファミリーの基礎知識から、どうしたらお互いに良好な関係を築くことができるのか?、までを実例を挙げてわかりやすく解説。これからステップファミリーになろうとしている方や、いまステップファミリーで悩んでいる方はもちろん、臨床家や児童相談所職員、司法関係者の方に手にとっていただきたい一書。

A5判 192頁 本体2,200円+税



離婚と子どもの司法心理アセスメント

子の監護評価の実践

G・S・W・フルマン, 他 著/田高 誠, 他 訳
心理学は離婚と子の監護をめぐる司法手続にいかに関与できるか。実証的な知見を網羅し、実務と研究に体系的な指針を示す。

A5判 240頁 4,200円+税



ステップファミリーをいかに生き、育むか

うまくいくこと、いかないこと

P・ペーパーナウ 著/中村伸一, 他 監訳
本書はステップファミリーをはじめ、セラピストや医師、法律家、宗教家、教育者など、ステップファミリーを支援する人々のために役立つ一冊である。

ジェノグラム

家族のアセスメントと介入

M・マクゴールドリック, 他 著/渋沢田鶴子 監訳
〈生きた家族〉を図解し理解するためのさまざまな工夫。著名人家族の家系を通して学ぶ「ジェノグラムワーク」の基礎。

B5判 272頁 4,800円+税



家族の心理

変わる家族の新しいかたち

小田切紀子, 野口康彦, 青木 聡 編著
恋愛・結婚・離婚・再婚・子どもと家族のライフサイクルに沿ったテーマを通して家族の現在をとらえる新しい家族心理学の教科書。

A5判 204頁 2,600円+税



臨床心理学

Vol.20 No.4 特集 **カウンセラーの「問う力・聴く力」**

増刊第12号 **治療は文化である** — 治癒と臨床の民族誌

臨床心理学の今を伝える専門誌 B5判160頁/年6回(隔月奇数月)発行/本体1,600円(増刊2,400円)+税/年間購読料12,000円+税(増刊含む, 送料小社負担)

精神療法

Vol.46 No.4 特集 **脳科学と精神療法**

増刊第7号 **疾患・領域別最新認知行動療法活用術**

わが国唯一の総合的精神療法研究誌 B5判130頁/年6回(隔月偶数月)発行/本体2,000円(増刊2,800円)+税/年間購読料14,800円+税(増刊含む, 送料小社負担)

支える・つながる

地域・自治体・国の役割と社会保障
シリーズ・子どもの貧困⑤

松本伊智朗 編集代表
山野良一、湯澤直美 編著

ISBN978-4-7503-4808-7 ©2500円

子どもの貧困に対する対応策が、ナショナルミニマムの確保とソーシャルワークの展開という観点から示される。子どもの貧困への対応策の議論全体の枠組みを示すうえで、自治体レベルでの対応の可能性についても検討する。



別れても ふたりで育てる

子どもを犠牲にしない離婚と養育の方法
ジョアン・ペドロ・キャロル 著
丸井妙子 訳

ISBN978-4-7503-4152-1 ©2500円

離婚を経験した子どもがその逆境を乗り越えて力強く生きていくために、親はどのように子どもを育て、支援していくべきか。米国の臨床心理学者が提案する、子どもにとって最善な離婚後の子育て法。



子づれシングルと 子どもたち

ひとり親家族で育つ子どもたちの生活実態
神原文子 著

ISBN978-4-7503-3981-8 ©2500円

ひとり親家族で育つ子どもたちを対象に行った生活実態に関する調査や数多くのインタビューから、親の離婚・再婚や本人の進学問題、生活保護の問題などさまざまな課題を浮き彫りにし、子どもたちの自立支援について問題提起する。



国際結婚・離婚 ハンドブック

日本で暮らすために知っておきたいこと
田代純子 著

ISBN978-4-7503-3397-7 ©2000円

国際結婚カップルや子どもたちが日本で安心して暮らしていくために、知っておきたいことは何か。法律上の権利をまもり、トラブルに巻き込まれないために、複雑な法律や手続きにうまくつきあっていく方法をわかりやすく解説する。



離婚と 子どもの幸せ

面会交流・養育費を
男女共同参画社会の視点から考える
日本弁護士連合会 両性の平等に関する委員会 編
ISBN978-4-7503-3424-0 ©2500円

日弁連両性の平等に関する委員会が、離婚後の子どもと親の関係の持ち方について、面会交流と養育費の問題を中心に男女共同参画社会の視点から考察し、まとめたものである。



ステップファミリーの社会学 (仮)

親の離婚・再婚と子ども
野沢慎司、菊地真理 著

[2020年12月刊行予定]

市区町村 子ども家庭相談 の挑戦

子ども虐待対応と地域ネットワークの構築
川松亮 編著 ISBN978-4-7503-4944-2 ©2500円

各自治体で独自の相談体制が築かれてきたが、その取り組みには格差が大きい。本書では自治体への訪問調査をもとに特色ある取り組みを紹介し、体制整備のヒントを示す。



新版 Q&A 少年非行を 知るための基礎知識

親・教師・公認心理師のためのガイドブック
村尾泰弘 著 ISBN978-4-7503-5002-8 ©1800円

少年の非行はどのように引き起こされるのか、また事件はどのように処理されるのか。ナラティブ・セラピーなどさらに新しい知識や事例を盛り込み、できるかぎりわかりやすく解説する。



別れる？ それとも やり直す？

カップル関係に悩む
女性のためのガイド

うまくいかない関係に潜む“支配の罠”を見抜く
ランディ・バンクロフト、ジャック・バトリッシ 著
高橋睦子、中島幸子、柴田千春、岡田仁子 監訳 阿部尚美 訳

ISBN978-4-7503-4321-1 ©2800円

パートナーの破壊的な行動に悩む女性のために、長年、共感の手を差し伸べてきた著者が、現実を見分け、どのような選択をすればよいか、具体的なアドバイスをする。DVのグレーゾーンで苦しむ女性が自分の人生を生きるためのガイド。



養子縁組を 考えたら読む本

これから親になるあなたに知って欲しい20のこと
シェリー・エルドリッジ 編
ヘネシー澄子 監訳 石川桂子 訳

ISBN978-4-7503-4845-2 ©2000円

子どもの心模様を体験し、育てる親の驚きや不安を味わい、全身で養子の子どもの置かれた状況を理解する。養子を迎えようとするだけでなく、その支援者にも必読の書。



養子制度の 国際比較

鈴木博人 編著

ISBN978-4-7503-4942-8 ©6000円

本書は10カ国の養子制度に関する研究論文を収め、それぞれの国の養子制度の全体像を紹介するとともに、児童福祉法、養子縁組斡旋制度も視野に入れて養子制度を総合的に把握する。



子どもアドボケイト養成講座 (仮)

堀正嗣 著

ISBN978-4-7503-5082-0 ©予価 2000円

いじめや虐待、貧困などにより権利侵害を受ける子どもたちを守り支援していく「子どもアドボカシー」の法制度化が日本でも目指される中、その全体像とウエッセンをわかりやすく伝え、支援者としての「子どもアドボケイト」を養成することを目的とした入門書。

No.2 2020

The Japanese Journal
for Research
on Children
of Divorced Families
and Stepfamilies

ISSN 2435-7235

離婚・再婚家族と 子ども研究

目次

巻頭言

- ・学会誌第2号の発刊にあたって野口 康彦 1

投稿論文/資料論文

- ・日本語版 MCS-DR の因子構造, 信頼性, 妥当性の検討青木 聡 2

大会報告「離婚・再婚と子どもの育ち」

- ・第2回大会を振り返って野沢 慎司 13

基調講演

- ・子どもの意見表明権と子どもへの情報提供
— 尊厳と育ちへのサポート —二宮 周平 16

第2回大会シンポジウム「離婚・再婚と子どもの育ち」

- ・離婚・再婚と子どもの育ち 開会の辞町田 隆司 29
- ・親の離婚を経験した子どもの家族意識
— 家族の境界・親とは誰か —梶井 祥子 30
- ・紛争下の子どもの健全な育ちのために
— 家裁における取組の紹介 —横山 和宏 35
- ・ADR (裁判外紛争解決手続き) の場で語られる離婚と子どもの福祉
.....小泉 道子 41
- ・質疑応答・補遺町田 隆司 46

大会参加者の声

- ・ラウンドテーブル「面会交流支援への家族療法の適用をめぐる」
での話題提供を終えて小林 佳代 49

支援活動団体紹介

- ・一般社団法人びじっと・離婚と子ども問題支援センター
— 面会交流支援現場の活動 —古市 理奈 53

書評

-長野 恭子・古賀 礼子・武田 大助・生駒 俊英 57

最新の第2号を
2020年6月に発行しました
(定価1,300円、税なし、送料は学会負担、振
込手数料は必要に応じてご負担ください)
お問い合わせ先: 編集委員会事務局
edit@jarcds.org



日本離婚・再婚家族と子ども研究学会

日本離婚・再婚家族と子ども研究学会

第3回大会プログラム・大会論文集

2020年10月1日 第3版発行

日本離婚・再婚家族と子ども研究学会第3回大会委員会

オンライン開催